

No.4 豊科・飯田地区

—— 堰と屋敷林を訪ねて ——

信濃教育会生涯学習センター（旧信濃教育会本館）を起点に、拾ヶ堰、飯田砦跡、屋敷林、旧飯野屋などをめぐるコースです。古代から中世の開発の元となった飯田堰、安曇野を代表する疎水である拾ヶ堰や勘左衛門堰など、安曇野の利水の歴史を垣間見ることができます。また、屋敷林や本棟造など歴史的なまちなみも残っています。



飯田砦跡



北アルプスを望む田園



◆コースタイム ※時間は歩速 3km / 毎時としての目安です（休憩含まず）。

スタート 信濃教育会生涯学習センター（旧信濃教育会本館）→約 0.2km*5 分→旧飯田村郷蔵（信州坊主）→約 0.7km*15 分→拾ヶ堰サイフォン→約 1.5km*30 分→飯田砦跡→約 0.4km*10 分→中飯田の屋敷林→約 1.4km*30 分→旧酒蔵「飯野屋」（蔵久）→約 1.1km*20 分→飯田の諏訪神社→約 0.3km*5 分→ゴール 信濃教育会生涯学習センター（旧信濃教育会本館） 【合計】約 5.6km*1 時間 55 分



信濃教育会生涯学習センター（旧信濃教育会本館）



飯田堰と古いまちなみ



本棟造と屋敷林

①信濃教育会生涯学習センター

(旧信濃教育会本館) ※国登録有形文化財

昭和4年(1929)長野市内に信濃教育会の本館として建てられたものを、平成2年(1990)にこの地に移築したものです。現在は生涯学習センターとして利用されており、ゴシック調の内部意匠、黒光りするケヤキ材、昭和の文人らの書など、内部にも見どころがたくさんです。

◇開館時間：9:00～16:00

休館日：土・日曜日 入館料：無料



②西田幾多郎碑 ※安曇野市有形文化財

「西田哲学」と呼ばれる独自の哲学世界を築いた、近代日本の代表的哲学者・西田幾多郎(1870～1945)の詞碑で、「無事於心 無心於事 物となつて考へ物となつて行ふ」とあります。昭和16年(1941)当時の高家村と高家小学校が西田幾多郎に揮毫を依頼して建てました。



③旧飯田村郷蔵(信州坊主)

江戸時代に村ごとに建てられた郷蔵は、年貢米の集荷や備蓄米の保管などに使われました。明治に入ると旧飯田村ではまず「飯田学校」に、その後は公民館へと転用し、現在は移築再生され蕎麦屋「信州坊主」となっています(安曇野市所有)。



④拾ヶ堰サイフォン

サイフォンとは、引いてきた奈良井川の水を梓川の下をくぐらせ安曇野に引き入れる施設です。それまでは牛杵や蛇籠などを使って水路を平面交差させていましたが、大正9年(1920)に川底にコンクリート管を埋設する大工事を行いました。展示されているのは、平成10年(1998)に改修したときの掘削機のドリルです。



⑤飯田砦跡 ※安曇野市史跡

戦国時代、信濃に侵攻してきた武田軍が前線基地として造ったとされる砦跡です。土塁や空堀の遺構がよく残り、「つわものどもが夢のあと」の雰囲気を感じることができます。この周辺にはほかにも真々部氏館・鳥羽館・熊倉館などの中世の城館跡が点在しています。



⑥つくればら観音堂

馬頭観音ばかりが集められている村はずれのお堂です。人馬の休息や、馬をつくろったり、餌をやったりする場所だと伝わっています。



⑦中飯田の屋敷林と本棟造

江戸中期の建築というI邸は、棟に上げた「雀おどし」や正面の格子窓など本棟造の特徴がよく表れ、保存状態も良好です。手入れの行き届いた屋敷林と趣きのある源氏堀とのバランスも良く、古い風情を残しています。遠路を来る人の目印となるように母屋の壁は褐色に塗られ、かつては「赤壁」と呼ばれていました。

安曇野豆知識 p.24



⑧旧酒蔵「飯野屋」(蔵久) ※国登録有形文化財



江戸後期の文化年間(1804～18)創業という酒蔵「飯野屋」で、近年までここで「酔園」を醸造しており、当時の面影が残っています。本棟造の主屋の一部を利用して、現在はかりんとう製造会社が食事処「蔵久」として営業中です。古民家保全の好例といえます。

飯田の道祖神

飯田地区には全部で12基の道祖神があり、そのうち双体像は1基のみです。あとはすべて文字碑で、書体もさまざまです。



a 道祖神
文字碑 文政7年(1824年)



b 道祖神
文字碑 文政5年(1822年)



c 道祖神 文字碑
小さい方は松本市島内の平瀬から道祖神盗みされた「嫁入り道祖神」と伝えられています。

安曇野豆知識 p.27